

SDGs ディスカバリー プログラム in ベトナム

いま、ここにしかない
出会いと発見。

2019年度
開催報告書



目次

プログラムについて

| | |
|-------------------|-----|
| SDGs ディスカバリープログラム | 3-4 |
| SDGs 表現論 | 5-6 |

活動報告

| | |
|-------------|-------|
| プログラム概要 | 7-8 |
| 活動報告 | 9-14 |
| 世界自然遺産体験ツアー | 15-16 |
| ペアトリップ | 17-18 |
| マイプロジェクト | 19-20 |

これから

| | |
|-------------|-------|
| SDGs表現論2020 | 21-22 |
|-------------|-------|



SDGs ディスカバリー プログラム



SDGs ディスカバリープログラム

SDGs ディスカバリープログラムは、SDGsを自分ごとにする海外研修です。本プログラムの参加対象者は、**社会課題に気づき解決・挑戦していくマインド(Discovery Mind)**を身につけたい学生です。「発信」をキーワードに、ベトナム国家大学ハノイ校日越大学の大学院生の協力のもと、海外フィールドワークを実施しました。

プログラムの狙い

学生が主体的に物事を理解する・学ぶ姿勢を身につけることを軸に以下の4つをプログラムの狙いとししました。

- 1 ▶ 日越大学の現地学生との交流、ならびにフィールドワークにより**地球市民(グローバルシチズン)としてのマインドやスキル**を身につける。
- 2 ▶ 言語によるコミュニケーションだけでなく、動画やSNSなどのメディアを活用することで、**積極的にプロジェクト発信**を行えるようになる。
- 3 ▶ 日本人特有の物事を完全に理解しないと行動に移さないことから、**まず行動する、発信することに加え行動する**学びを得る。
- 4 ▶ SDGsに関連する正課での授業(SDGs表現論)を踏まえ、更に挑戦したい参加学生の受け皿となり、**より発展的な学びの支援**をしていく。

今回の活動では、参加学生がグループを組み、自主的にリーダーに立候補、そしてリーダーを中心にテーマ設定から、具体的な現場でのアクションまで、ほとんどを学生で計画・実行しました。ベトナムでは、日本で生活する私たちの想像を超えたことに、その場その場で柔軟に対応することが強く求められました。その結果、プログラムを通じて、刻々と変化する社会を見る目を養うことができました。ご協力いただいた、学生部ならびに教育学部共通教育課の皆様にご感謝申し上げます。

担当教員・コーディネーター



山中 司
生命科学部 教授
国際部 副部長



佐藤 圭輔
理工学部 准教授
現在日越大学勤務



上田 隼也
立命館SDGs推進本部
イノベーション・オーガナイザー

教養ゼミナール

SDGs表現論

— 次世代リーダーの育成 —
マイプロジェクトを立ち上げよう



担当教員の想い

「SDGs表現論」では、**自分の興味・関心から取り組むマイプロジェクト**にこだわります。

そしてそれに取り組む中で、それらを**SDGsにつなげる**ことを考えます。

SDGsが達成を掲げる2030年まで多くの時間が残されているわけではありません。

しかし2030年までにSDGsの達成が困難であると、心の底から焦っている人は、一体世界に何人いるでしょうか。単なる流行り廃りでSDGsを考えるだけなら、少しは世界のためにはなるかもしれませんが、全く本質的でないと思います。だからこそ、マイプロジェクトです。

全ての学生に受講してもらいたい、SDGsの導入的な授業です。

到達目標

- **プロジェクトを立ち上げる力 (構造力・構想力)**

自分が興味を持つ内容をテーマにプロジェクトを立ち上げ、カリキュラム終了後もプロジェクトを継続できる基盤をつくる。

- **SDGsで社会課題を明らかにする力 (課題発見力・俯瞰力)**

複雑な社会課題に対して、SDGsを1つの切り口にすることで、グローバル・ローカルな視点から課題を明確にし、プロジェクトに特長をつけることができる。

- **マイプロジェクトを表現する (発信力)**

学生や教員だけでなくプロジェクトに関係する方々にも知ってもらうために、様々な場所で発表し評価を受ける。また、プロジェクト発信の仕方もプレゼンテーションに限らず、動画、SNSの活用により柔軟で効果的な発信ができるようになる。

講義内容

※内容は2019年度に実施したものです。

Week 1 - Week 3

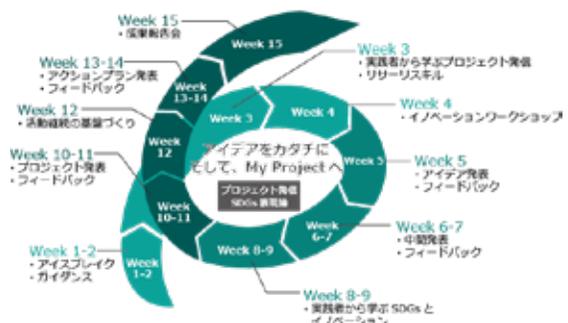
- アイデアが生まれる
- 自分ごとの課題を見つける

Week 4 - Week 10

- アイデアを形にする
- 手法を学ぶ(イノベーション)

Week 11 - Week 15

- アクションを起こす
- 発信して巻き込む



▲SDGs表現論プログラムの流れ

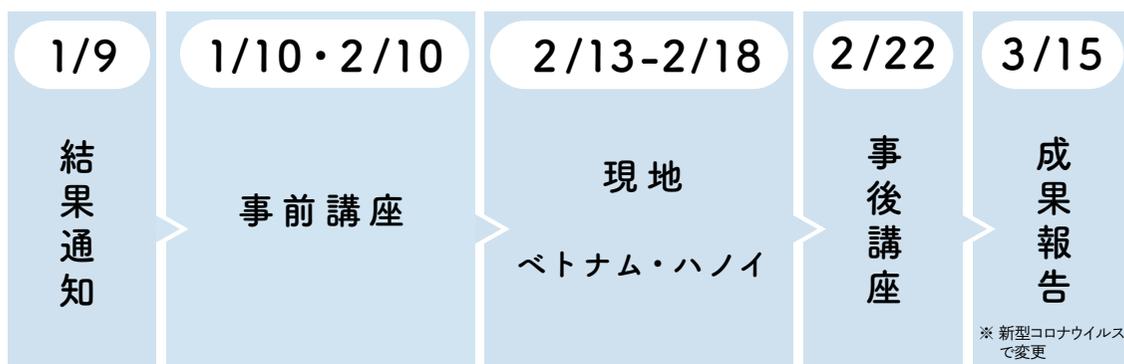
プログラム概要

期間：2020年2月13日(木)-18日(火)

派遣先：ベトナム・ハノイ周辺

派遣人数：19名

対象：立命館大学 学部生(学部・学科・回生問わず)



▲全体スケジュール

参加者一覧

| | |
|----------------------|-------------------|
| 荒平 由佳 (文学部1回生) | 田中 拓磨 (理工学部2回生) |
| 兒玉 力哉 (文学部2回生) | 笹井 貴央 (理工学部2回生) |
| 高島 千聖 (文学部3回生) | 柴田 哲平 (理工学部2回生) |
| 高橋 利彩 (法学部1回生) | 西野 日菜 (理工学部3回生) |
| 手島 良太 (法学部2回生) | 岸本 俊輝 (理工学部3回生) |
| カン ミンジ (国際関係学部2回生) | 中西 優奈 (生命科学部3回生) |
| 横溝 れい (産業社会学部3回生) | 叶 美菜子 (政策学部1回生) |
| 永井 哲太 (映像学部1回生) | 原田 育堯 (政策科学部1回生) |
| 後藤 大輝 (映像学部2回生) | 門田 菜々 (総合心理学部2回生) |
| 豊田 真彩 (食マネジメント学部1回生) | 計10学部 19名 |

現地スケジュール

DAY 1 出国

自由にホテル近くのショッピングモールなどに出かけました。ベトナムの非常に混雑した交通状況、食事、お金の使い方などベトナムの文化に刺激を受けた1日目となりました。



DAY 2&3 フィールドワーク

この2日間は、チームに分かれてフィールドワークを行いました。事前に決めたテーマに沿って、視察・インタビューなどの手法を用い調査しました。

| チーム | DAY2 | | DAY3 |
|-------|--------|------|-------|
| 政策チーム | 日本大使館 | >>>> | ハノイ周辺 |
| 環境チーム | 日越大学 | >>>> | ハノイ周辺 |
| 交通チーム | ハノイ周辺 | >>>> | ハノイ周辺 |
| 食チーム | タイピン | >>>> | ホーチミン |
| 観光チーム | タンロン遺跡 | >>>> | ニンビン |
| 教育チーム | ハノイ周辺 | >>>> | ハノイ周辺 |

▲ 各チームの行先



DAY 4 世界自然遺産体験ツアー

ハロン湾はハノイ市内から車で3-4時間のベトナム北部のクアンニン省に位置する世界自然遺産です。水墨画のような神秘的な風景は「海の桂林」と例えらえるほどの美しさです。参加者ほぼ全員がツアーに参加しました。



DAY 5 ペアトリップ

ランダムにペア組んで、ハノイ市内を観光しました。これまでの4日間であまり話せなかった人とも交流を深める機会となりました。



DAY 6 帰国

フィールドワーク

DAY2とDAY3では各自の興味・関心に応じて、政策・環境・交通・食・観光・教育の6チームに分かれてフィールドワークを行いました。



国を超えて取り組むSDGs

政策チームはベトナムの抱える環境問題や交通インフラ問題、社会保障問題などをはじめとする様々な行政上の課題を**法整備の観点**から考えることを目標にしました。在ベトナム日本大使館では上記の内容に加えて人身売買の現状やその支援について説明していただき、なぜ日本がベトナムにそのような支援をするのかというお話がSDGsの根底にある考え方に通じるものがあると感じました。さらに、旧市街でベトナムの生活を目の当たりにして、**発展途上国が抱える諸問題は、発展途上国のみにとどまらず、先進国も取り組むべき普遍的な問題**であり日本も積極的に取り組む意義を確認できました。今後は複雑に絡み合う課題を法整備以外の観点からも多角的に考察していきたいと考えます。

環境問題を自分ごとに

環境チームはベトナムの環境をテーマに、ゴミと水の問題について調査しました。1日目は日越大学にて、本プログラム担当教員の佐藤先生にベトナムの社会状況、環境問題についてお話を伺いました。2日目は、ハノイ市内を中心に水質とゴミ問題の調査をしました。ハノイ市内で調査した池の水質は、水道用水源としての日本の基準を満たしてはならず、**水質汚染の現状**が明らかになりました。ゴミ問題に関しては、ハノイ市内の公園や観光施設はきちんと清掃がされていましたが、大通りから離れた路地や旧市街にはゴミが散乱している現状が見受けられました。今後は文系と理系両方の視点から、**本当に必要な開発、環境問題の本質をSDGsの観点から**見極め、**マイプロジェクトを発信**していきたいと思います。

環境チーム: 笹井 貴央 (理工学部2回生)



交通システムの可能性を探る

交通チームは、**ベトナムの交通事情**に注目しながらハノイの観光地をまわりました。2日目は日越大学の4名の案内があり、ベトナム独立の歴史を教えてもらいながら歩く景色は、ただ見るだけの観光とは全く異なるものだと感じました。日本の人力車のような乗り物「シクロ」に乗った際は、道路の真ん中を生身ですり抜けるスリルも体感することができました。ベトナムの交通は、写真で見ていた通り混沌としており、バイクと車と歩行者が入り乱れています。しかし、タクシーやバスから運転手の視点で観察してみると、一人一人がアイコンタクトを取りながら**その場で判断する交通ルール**がありました。そのため、交通量は膨大にも関わらず、日本のような大渋滞はまったくありませんでした。日本の交通は秩序が保たれていて良いシステムだという考えは捨てて、**新たな可能性をこれからも探っていきたい**と思います。

交通チーム: 岸本 俊輝 (理工学部3回生)





食から考えるサステナビリティ

食チームは、**農業や食の切り口からベトナムのサステナブルな取り組みを調査**してきました。

1日目は「Fargreen」という社会課題解決を目指す農業団体の農園ツアーに参加しました。

2日目はホーチミンへ飛び、フードロスや再エネの導入など、様々なサステナビリティに取り組むピザ屋「Pizza 4P's」や、ベトナムで最もサステナブルな会社選ばれた

「Heineken」を訪れ、企業が行っている取り組みを間近で見ました。3日目はハノイ旧市街にて、サステナビリティについて学び合うコミュニティスペースを併設したカフェや、

サステナブルなグッズのみを扱う雑貨屋を巡りました。様々なサステナビリティの事例を

知れたと同時に、**個人でサステナビリティに取り組む方々から刺激**を受け、自分自身が

取り組むべきサステナビリティについて深く考えさせられました。これを今後マイプロジェクトとして実践に落とししていきたいと思います。

食チーム: 高島 千聖 (文学部3回生)





都市と農村を観光でつなげる

観光チームは、「持続可能な観光開発」をテーマに都市部と農村部の観光地を訪れました。

1日目は、ハノイ市内の観光名所を巡りました。交通量の多さや、有料のトイレ、唐突な売り込みなど、**身近に潜んでいるベトナムの文化**を実際に体験することができました。2日目は、ニンビンの自然体験ツアーに参加しました。ニンビンは旧市街の出発地からバスで2時間程度のところにある農村地域です。海外から来た観光客にとって、効率的に名所を回れるツアーは需要があると感じました。2日間を通して、**都市部から気軽に農村地域へのツアーに参加できる点**に関して、日本の中山間地域の観光開発の参考になると考えました。ただ、**日本の地方経済に貢献できる仕組みやガイド人材などの課題**にも着目し地域ごとに合わせた政策を立案する必要性があります。

観光チーム: 中西 優奈 (生命科学部3回生)





国による教育の違いを実感

教育チームは、ベトナムの抱える教育問題について調査し、主に日本とは異なる”社会主義”から生じる教育の差異について実感しました。コロナウイルスの影響で公共施設がすべて閉館となっていたため、市場や観光地でインタビューを行いました。結果としては35名の外国の方にお話を伺うことができ、そのコミュニケーションの中で、**日本と諸外国の教育環境の違い**を感じました。インタビューを通してチームメンバーと**社会主義の良い点、悪い点**について論議を尽くすことは大きな学びに繋がりました。事前に調べていた情報だけでは思い通りにはいかない部分も多くあり、**“出たところ勝負”**で対応することの**大切さ**も学ぶことができました。今後グローバル化がますます進んでいく社会の中で、私たちに求められていることは誰も取り残さない、**“多面的な思いやり”**だと思います。様々な人の立場に立ってものごとを考え、行動していきたいです。

教育チーム: 後藤 大輝 (映像学部2回生)

世界自然遺産体験ツアー

DAY4 ハロン湾ツアー

ハロン湾は、大小3000の奇岩や島々、そして美しい景観を持つことで有名です。しかし、ホテルや住宅からの生活排水、観光船からの排気ガスや廃液などで汚染されているという問題があります。その解決策として観光船のバイオディーゼル燃料の使用が進められています。実際に、ペットボトル持ち込み禁止など、観光客が参加する環境保全への取り組みがされていました。





シーカヤック

シーカヤックは2人ずつ小さな船に乗り自分で漕ぐアクティビティです。クルーズ船では入れない岩の隙間などを探検することができました。

SEA KAYAK



ティエンクン洞

ハロン湾に点在する鍾乳洞の中で最も立ち寄られるポピュラーな鍾乳洞です。青や緑にライトアップされ幻想的な世界を楽しめました。

DONG THIEN CUNG



ペアトリップ

DAY5 ハノイ周辺観光

ベトナムで過ごす最後の日は、参加者からランダムにペアを決めてハノイ周辺の観光をしました。これまでの4日間であまり話せなかった人と話す機会となり違った視点でベトナムの文化を感じました。さらに、チームで設定したテーマから離れ、ベトナムならではのSDGsを「Discovery (発見)」することができました。



ハノイの観光地



聖ヨセフ大聖堂

フランスに統治されていた時代を象徴する建物です。周りには外国料理店が多く存在し、観光地の中心に位置しています。中に入れる時もあるそうですが今回は閉鎖され、入ることができませんでした。立派な教会なためここで結婚式を挙げる人もいます。



文廟

ベトナムで一番古い大学です。ベトナムドンの100,000札に印刷されていてハノイの象徴の1つとなっています。学問の場所としても有名で訪れた時には現地の高校生の卒業式が行われていました。奥には講堂があり儒教の開祖である孔子像が祀られていました。



ホーチミン廟

ベトナムの独立のために生涯をかけ、ベトナム国民の父として敬愛されるホーチミンの亡骸が眠る場所。入るにはセキュリティ検査を受ける必要があります。ホーチミンが住んでいた家も見学でき、質素儉約なホーチミンの生活が伺えました。

ハノイで見つけたSDGs



紙ストロー



金属ストロー



再利用可能な箸



生産者の顔がわかる商品

ベトナムはSDGs達成度が世界54位、東南アジア2位です。2018年12月に電通が実施した調査ではベトナムのSDGs認知率は80.7%と高い数字を示しており国民の意識の高さが伺えます。プログラム中に回った様々な場所でもSDGsに関する取り組みが行われていて日本よりも進んでいると思われる部分が多々ありました。

マイプロジェクト

みんなのSDGs アクション

1 世界遺産を通じて 海外を伝える

世界遺産について調べ・発信し、
若者が海外に行ききっかけを広げる。

荒井 由佳 (文学部1回生)



2 ベトナムの 環境問題

ベトナムの小学生に環境問題に
対するグローバルなアプローチを教える。

高橋 利彩 (法学部1回生)



3 Vietnam x Japan Cultural Exchange

映画や絵画などの娯楽でベトナム
文化のイメージを変える。

後藤 大輝 (映像学部2回生)

4 セーブハート

ハート(命・愛・幸福)を守り、育てて
いくプログラムをつくる。

柴田 哲平 (理工学部2回生)

5 ASEANの国で 世界の「夢」インタビュー

コミュニケーションで「夢」を自分ごと
に考えるきっかけを提供する。

門田 菜々 (総合心理学部2回生)



6 参加型 政治サービス

誰もが政策について評価・提案
できるプラットフォームをつくる。

原田 育堯 (政策科学部1回生)

7 イロドリ お祭り市場

空港を世界の子どもたちに夢を
与えられる場所にする。

横溝 れい (産業社会学部3回生)

8 平和と公正を すべての人に

「誰ひとり取り残さない」国家の
基盤づくりに関わっていきたい。

手島 良太 (法学部2回生)



9 移動をもっと 楽しく

地域と協働しながら、開発した
サービスの提案から社会実装へ。

岸本 俊輝 (理工学部3回生)



10 大きな事象に負けない 強いコミュニティを作る

個人が「自立」できる「自律」した
コミュニティで持続可能な地域を実現する。

西野 日菜 (理工学部3回生)



11 都市農村 交流

これまでの活動でつながった地域と
学生をつなげ、活動をサステナブルに。

高島 千聖 (文学部3回生)

12 食から人を しあわせに

地方創生・防災・教育を食から
アプローチしたプロジェクトを実現する。

豊田 真彩 (食マネジメント学部1回生)

13 安全で当たり前の 水道水を見直す

水道の水の安全を見つめ直し、マイ
ボトルの利用促進・ゴミ削減をする。

笹井 貴央 (理工学部2回生)



14 水質から見える 環境問題

SDGsの視点から、様々な国の
環境問題と向き合う。

カン ミンジ (国際関係学部2回生)

15 機会の 不平等をなくす

環境の差異に関係なく、関心ごとに
アクセスできる土壌をつくる。

叶 美菜子 (政策科学部1回生)

16 履歴書を 自己表現の世界へ

履歴書の常識を覆し、目に見えない
評価が可視化できる時代をつくる。

兒玉 力哉 (文学部2回生)



17 不登校の学生に 今しかできない体験を

学校に行かなくても、行動を起こす・
自分を見つめ直すきっかけをつくる。

永井 哲太 (映像学部1回生)



18 日本の地域の 魅力を発信

みんなに伝わるデザインで、自分に
できることから地方創生に関わる。

中西 優奈 (生命科学部3回生)

19 シラバス 2.0

履修計画に優しい学生向けの
シラバスサービスを開発する。

田中 拓磨 (理工学部2回生)

SDGs表現論

-プロジェクト・プラグマティズム・ジブンゴト-

SDGsを自分ごとに、そしてアクションを起こしたくなる
オンライン講座です。参加学生のマイプロジェクトは、
本講座の最終課題にて提出されたものです。

受講は
こちらから



※2020年5月8日まで受講可能(無料)

SDGs表現論 2020

担当教員と一緒に授業を運営するESから

※ES(Educational Supporter)は、授業運営の補助業務を行う学部生です。



高島千聖 (衣笠キャンパス担当 / 春 semester 木曜3限)

文学部3回生の高島千聖です。「やりたいことがない」「やってみたいけどどうしたらいいかわからない」そんな悩みを抱えてはいませんか？私も以前はそうでした。それでも自分のワクワクを頼りに行動を繰り返し、今ではマイプロジェクトを見つけることができました。残りの学生生活をもっと有意義に過ごすために、まずはこの授業を通じて皆さんがワクワクを感じるスイッチを見つけましょう！それを形にして、マイプロジェクトを育てていきましょう！



石原来美 (びわこ・くさつキャンパス担当 / 春 semester 水曜4限)

食マネジメント学部2回生の石原来美です。この授業のよいところは、受講生に自由と主体性があることです。受講生一人一人が自分の考えや意見を持つことで、様々な考え方や価値観がかけ合わり、自分の新しい可能性を知ることができます。自分自身の可能性を知ることができる授業ってワクワクしませんか？この授業を創っていく主体となるのは、先生でもESでもなく受講生です。自分の意見や考え方を言葉に、やりたいことを形にしなげらぜひ私たちと一緒に面白い最高の授業をつくりましょう。



田中 拓磨 (大阪・いばらきキャンパス担当 / 秋 semester 木曜5限)

理工学部2回生の田中拓磨です。この授業では、面白いことをやっている学生に会えることがよいところです。1人で取り組んでいたことや自分のやりたいことをマイプロジェクトという形で発信することで、仲間が見つかったり、違う分野とのコラボレーションが生まれるなどそれまで見えてなかった可能性を掴むことができます。SDGs表現論を受けることで「大学って面白い」と感じられると思います。やりたいことをやるために大学にきたのに実現できてない方、ぜひこの授業をきっかけに自身のやりたいことを実現してください！

2019年度衣笠キャンパスにて開講したSDGs 表現論は、来年度の3キャンパスで開講されます。昨年度の授業では個人のプロジェクト発表やフィードバックを積極的に行いました。さらに、京都市内フィールドワークや公開授業として「パイオニア講演会」を3週連続で行うなど受講生のマイプロジェクトに必要なマインドを育てる機会を提供しました。

昨年度の授業の様子



▲マイプロジェクト発表



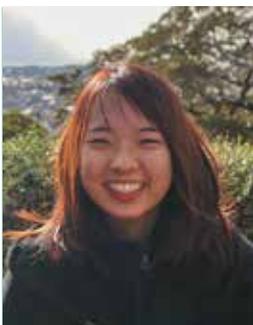
▲プロジェクトのフィードバックをシェアの様子



▲京都市内フィールドワーク



▲仲谷総長によるパイオニア講演会



中西 優奈 (2019年度衣笠キャンパスES)

2019年度秋semesterの授業でESをしました中西優奈です。初めて開講する科目なこともあり、ただ授業のアシスタントをするだけでなく先生と共に授業を作り上げ、受講生と共に学んでいくことができました！来年からは3キャンパスで開講されます。SDGs表現論を受講することで、より多くの学生が色々な世界に飛び出せる、さらに、受講した学生の人生に影響があるような授業になって欲しいです。皆さんぜひ受講してみてください！



時代を創る出会いを。

お問い合わせ

共通教育センター（事務局：共通教育課）

TEL：(075) 465 8472

編集：田中 拓磨、中西 優奈、叶 美菜子

連絡先：jueda@st.ritsumeai.ac.jp

（担当：立命館SDGs 推進本部 上田）

※所属などは2020年3月現在のものです。